

～3つの異なる湧水と温泉～
小浜温泉

毎月、島原半島内のジオサイトやその見どころを紹介するこのコーナー。今回は雲仙市の観光スポットの一つである「小浜温泉」です。



3つの異なる湧水と温泉

小浜バスターミナルでバスを降り、山に向かって坂を上ると、小浜公会堂のレトロな建物が見えてきます。この建物の奥には、清らかな水が湧き出る湧水スポット「上の川湧水」があります。

上の川湧水には、1629年の夏、キリシタンを連れだ役人が雲仙に向かう途中に立ち寄って、喉を潤したというエピソードが残っています。かつての庄屋跡を忍ばせる見事な

石垣の下から湧き出る水は、中性の軟水で、水温は真夏でも20度以下です。今も多くの人が水を汲みに来るこの湧水から、約200メートル南に移動したところにあるのが「刈水」です。



上の川湧水
(江戸時代からわき続ける名水)

刈水では、地下から炭酸ガスがぼぼこと音を立てて湧き出し、様相が一変します。水温は28度前後で、水質は酸性です。独特の匂いがしますが、これはガスの中にわずかに硫黄が含まれているため

です。温度は低いもののこれも温泉(炭酸水素塩泉)で、この湯はあせもやアトピーなどの皮膚病に効くとされ、昭和の初めころまでは共同浴場もありました。

刈水からさらに200メートルほど南に移動すると、水温が90度以上に達するアルカリ性の温泉(塩化物泉)が、小浜歴史資料館の庭に湧き出しています。

この源泉は、本多氏(後の本多湯太夫)が1614年に愛知県三河から小浜に来て、初めて宿泊用の長屋を整備し、島原藩主松平忠房公の命を受け、江戸時代中期より維持管理してきたものです。この本多湯太夫の邸宅跡が現在の小浜歴史資料館で、正面の門は島原城から払い下げられた本物のお城の門です。

このように、小浜地域ではわずかに数100メートル移動するだけで、水温や



塩化物泉の源泉
(小浜歴史資料館の敷地)



刈水
(炭酸ガスが湧き出しています)

島原半島ジオパーク高校生研究発表大会

島原半島を題材とした県内の高校生のジオパーク研究発表会を開催します。発表会は、どなたでも観覧できます。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

- ▶とき 10月3日(土) 14時～
- ▶ところ 森岳公民館
- ▶問い合わせ先 島原半島ジオパーク協議会 (☎65-5540)



第5回島原半島ジオパーク検定
(初級・中級)開催決定!

とき 11月21日(土)
※詳しくは広報しまばら10月号でお知らせします

水質が大きく異なるさまざまな湧水・温泉と、それにつわる歴史が楽しめます。歴史や文化、食にも恵まれた小浜の町を、少し違った視点で散策してみませんか。今回は、武家屋敷を紹介します。